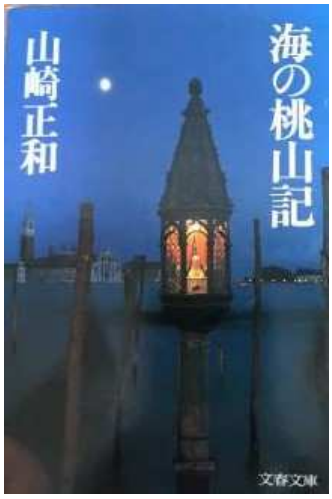
その本はそこに　読書案内 37　～ 少年たちの遣欧使節記をめぐる旅 ～

海の桃山記

山崎正和（文春文庫・1978）　❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖



山崎正和さんは、戯曲、文芸評論、文明批評、紀行文などあらゆるジャンルで旺盛な文筆活動をされている方です。この本は、天正遣欧少年使節団の後をたどる紀行文です。本能寺の変の起こった 1582 年・天正 10 年、長崎から発った少年達はローマ法王に会いに旅立ちます。

【天正遣欧少年使節団】

・伊東マンショ　（14 才）
・千々石（ちぢわ）ミゲル（13 才）
・中浦ジュリアン　（14 才）
・原マルチノ　（12 才）

鉄砲伝来 1543 年・ｻﾞｳﾞｨｴﾙ 1549 年。
地図や史跡図つき、日本人最初の西欧体験をめぐる精神史です。

❖長崎から発った少年たちは、中国マカオ（旧ポルトガル植民地）、インドのゴア、アフリカ大陸を回って、ポルトガルのリスボン港へ着いたのは 2 年半後、命がけの航海でした。ポルトガルからスペイン、パリ、そしてローマ・アッシジ・フィレンツェ・ヴェネチア…。使節団を立案したイエズス会巡察使ヴァリニャーノ。さまざまな問題に直面した日本のキリスト教会にテコ入れを行うことや、九州キリシタン大名の勢力回復と強化、また欧州のキリスト教を背景とした文化・力を、日本に伝えるためでした。

【ﾎﾟﾙﾄｶﾞﾙ・ﾘｽﾎﾞﾝ】ベレンの塔

❖ポルトガル・スペイン・イタリアに至る旅は、いたるところで王侯貴族・大司教などの招待と歓迎に明け暮れ、その歓迎ぶりは雪だるま式にだんだん大きくなっていきます。スペイン国王フェリペⅡ世と当時欧州最大の宮殿エスコリアル宮で謁見。王はポルトガル王も兼ねていて、まさに世界の大半を支配下に置く大王国の君主でした。そしてローマのバチカンにて、かつてないほどの大歓迎で使節一行は美々しい行列を作ってバチカン宮殿へはいっていき、ローマ法王・グレゴリウス 13 世（この時 83 才）と拝謁、安土城の描かれた安土山図屏風等を献上したといいます。安土文芸の郷（近江八幡）にて安土城の復元図や模型、金キラ信長の館（ｾﾘﾋﾞｱ万博出展 1992）が見れます。

【ｽﾍﾟｲﾝ・ﾏﾄﾞﾘｰﾄﾞ】ｴﾙ・ｴｽｺﾘｱﾙ修道院

❖8 年 5 ヶ月の旅を終え帰国するとキリシタン大名はすでに世になく、秀吉の宣教師追放令とともに、日本のキリシタンにとって暗い長い時代が始まっていました。ミゲルは棄教、ジュリアンは弾圧・拷問をうけて殉教しました。「室町記」からつづく「桃山記」を室町の都会性・国際性の総決算と見て、西欧文物への好奇心と受容、鎖国、エネルギー満ちた近世ヨーロッパに迫り時代の変化によって裏切られて捨てられた者の孤独を語っています。（黒野）

【ﾛｰﾏ】サン・ピエトロ大聖堂
前面広場・バチカン宮殿

ローマ法王・グレゴリウス 13 世